



栗原小だより

新座市栗原 1-5-1 ☎042-473-7070

HP <https://e-kurihara-c-niiza.edumap.jp/>



～学校教育目標～
よく考え学ぶ子
心のゆたかな子
たくましい子

令和7年度2月号

令和8年1月30日

チョコレートは、やさしい？

校長 古澤 健史

【大好きなお菓子だったのですが…】

寒い日が続いています。最近、スーパーやお店に行くとやたらとチョコレートが目につきます。バレンタインがあるからかもしれません。本校では、4月に1年生を迎える会が行われ、そこで先生紹介の時間があり、「私が好きな〇〇は、□□です。」と自己紹介をします。私も2年前は、「私が好きなお菓子は、ブラックサンダーです。」と言いました。でも、今年は言いませんでした。大好きなお菓子だったのですが、最近は控えていてあまり食べていません。理由は、犬を飼うようになり、犬が誤って食べてはいけない食品の1つのため特に注意をしているからです。そのため、家では食わず、こっそり犬に見つからないように外で食べています。

さて、年末に本を読んでいて気になる言葉を見つけました。「チョコレートは、やさしい。」という言葉です。この言葉は、久遠チョコレートの代表、夏目浩次さんの言葉です。犬のためにチョコレートを我慢している私は、「犬が食べちゃいけないのに何が優しいのだろう？」と思ったので、調べてみました。

久遠チョコレートは、障害のある人たちの働く場所を増やし、自分たちで生活していける水準でお給料を出せるように、作業内容を細かく分け、多様な障害を持つ人々が活躍できる環境を提供しています。従業員の過半数が障害のある人で、発達障害、知的障害、精神障害など様々な方が、ショコラティエとして高賃金を得ており、障害のある人の全国平均の10倍以上の月収を得る人もいて、その様子が映画化もされたそうです。「チョコレートは、やさしい。」とは、「チョコレートは失敗しても温めれば、作り直すことができる。」ことや「チョコレートは加工するとき火傷するほど温める必要がなく、誰でも作業しやすい。」ということだそうです。栗っ子たちが、「失敗してもやり直すことができる。やりた
いことに挑戦しやすい。」そんな栗原小学校でありたいと思います。

栗原小学校のホームページで学校生活の様子がご覧いただけます。(スマホでもOKです。)

【二番目の悪者にならないために…】

本校では読み聞かせ応援団の方たちに、月に1回、児童に読み聞かせをしていただいています。今年度も校長と教頭で読み聞かせに参加させていただきました。

私が6年2組で読んだ絵本ですが、動物の国のお話ということになってはいますが、自分自身の行動についても考えさせられるものでした。

さて、本の紹介です。『二番目の悪者』（林木林 作、庄野 ナホコ 絵）という絵本です。

※これ以降、本の内容に触れますので、本を読む前に内容を知りたくない方は、本を読んでからお読みください。

動物の国に住む金のたてがみを持つ金のライオンは、自分が王にふさわしいと思っていました。しかし、街外れに住む優しい銀のライオンが「次の王様候補」と噂されます。嫉妬に駆られた金のライオンは、銀のライオンに関する悪意のある噂を流します。根も葉もない噂を初めは誰も信じていませんでしたが、噂は瞬く間に動物たちの間に広まります。噂は一人歩きし、尾ひれがついて、どんどん大きくなっていきます。心配性のリス、おせっかいなサル、真実を確かめることもせず、何も考えずに噂を広める（拡散する）動物たち…。噂を信じた動物たちは、次第に銀のライオンを避け始めます。銀のライオンは、自分に関する噂を聞いても、いつかわかってもらえると思わずに苦笑いをするだけです。しかし、何も言わず、反論しなかったことは状況を悪化させてしまいます。噂はいつか真実と認識され、銀のライオンは居場所を失ってしまい、金のライオンが王となり、悪い王のために動物の国は滅びます。

物語の中で、空に浮かぶ雲が印象的な言葉を呟きます。「嘘は、向こうから巧妙にやってくるが、真実は自らさがし求めなければ見つけられない。」この言葉は、物語だけでなく社会の核心を突いています。